

# 財務諸表の本質を ざっくり理解して みましよう！

「価値」に着目した財務諸表のしくみ

その1

税理士・中小企業診断士 高橋和宏

## 岐阜商工会議所専門家研究会（ぎふ専研）

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。

主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。

### 1 商売の原点は「物々交換」

貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の財務諸表。大切なのはわかるが、どうも何を意味しているのかよくわからん！と耳にします。これらは、商売（経営）の状況や成績を表した物ですが、その商売の原点は、紀元前の大昔から行われてきた「物々交換」にあります。

「物々交換」とは、「俺が獲った魚と、おまえが収穫した米とを交換しよう」というもので、俺の魚とおまえの米の価値が同

じ時に成立します。「価値と価値の等価交換」これがビジネスの原点です。

その後、物と物を直接交換するのは不便なので、お金が使われるようになりました。その結果「価値」はお金という共通のモノサシで測られ、数値で表すことができるようになりました。しかし、ビジネスの本質は何も変わっていません。

### 2 財務諸表を「価値」の視点で見る

ビジネスの本質は「価値と価値の等価交換」とすると、経営の成績や状態を表す財務諸表は「価

値」と深い関係があるはずだ。

一般的には、損益計算書は一定期間の損益の状況を表し、貸借対照表はある時点での資産の調達と運用を表していると説明されていて「価値」という言葉は何も出てきません。

ところが、実は損益計算書は「価値の増減」を、貸借対照表は「価値の状態」を表している表で「価値」と深い関係があるのです。

### 3 損益計算書は「価値」の出入り表

損益計算書の利益は「収入と支出の差だ」つまり「お金の出

入りの差だ」という勘違いがよくあります。この勘違いが、勘定あつて銭足らずを引き起こします。

正しくは、**利益は「価値の出入りの差だ」ということ**です。ですから、損益計算書は、入ってきた価値（これが売上などの収益）と出て行った価値（これが経費などの費用）が書かれた表だというのが正しい見方です。

たとえば、100円の売上は、100円の価値が会社に入ってくるので価値の増加です。入ってくる価値は現金とは限りません。売掛金という権利の場合もあります。

同時に会社から商品という価値が出て行きます。70円で仕入

れた商品であれば70円の価値が出て行ったこととなります。

この結果、30円の価値が会社に残りました。これが利益です（図1参照）。

ところで、70円で仕入れた商品がまだ売れていないとするとどうでしょう？

商品を仕入れたときに、70円という何らかの価値が出て行っていますので、価値が減って費用が発生したと思うかもしれませんが、これは勘違いで、代わりに70円の価値の商品が会社に入ってきていますから、価値の増減はありません。ですから、この時点では費用は発生しておらず、利益もプラスマイナス0となります（図2参照）。

財務諸表について、大きな視点からその意味するところをお話ししました。細かな規則に照らすと正確ではない点もありますが趣旨をご理解の上ご了承ください。

（次回は、貸借対照表、キャッシュフロー計算書について説明します。）

（この「商品」は貸借対照表に表示されます。）

そして、前述のように、この商品を売った時に初めて、商品という価値が会社から出ていくので70円の費用（売上原価）として損益計算書に計上されます。

#### 【損益計算書】

入ってきた価値と出て行った価値の出入り表

|       |      |                      |
|-------|------|----------------------|
| 売上    | 100円 | 100円の価値(例：売掛金)が入ってきた |
| 売上原価  | △70円 | 70円の価値(例：商品)が出て行った   |
| 売上総利益 | 30円  | 30円の価値が残った           |

……以下、営業利益、経常利益なども同じ

■図1

#### 【商品を70円で仕入れた意味】

|      |                       |
|------|-----------------------|
| △70円 | 70円の価値(例：現金)が出て行った    |
| 70円  | 同時に70円の価値(例：商品)が入ってきた |
| 0円   | 会社にある価値は変わらないから、利益はゼロ |

■図2

税理士・中小企業診断士  
高橋和宏氏

●プロフィール  
タカハシ カズヒロ  
税理士法人グッドパートナーズ会計事務所 代表  
（税務に関する業務とともに、中小企業の成長、再生の支援を行っています。）

